



キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間（4月1日～3月31日）における「お金（キャッシュ）」の「流れ（フロー）」を表します。貸借対照表や損益計算書は発生主義の考え方に基づき作成され、実際の資金の収支状況と乖離していることから、キャッシュ・フロー計算書の作成が必要となります。

（単位：百万円）

	説明	平成25年度	平成26年度	差額
I 業務活動による キャッシュ・フロー	通常の業務活動（投資・財務活動以外）の取引に係る収入と支出の差額 運営費交付金収入、附属病院収入、人件費支出、原材料・商品又はサービスの購入による支出など	14,027	7,612	△ 6,414
II 投資活動による キャッシュ・フロー	資産の取得及び売却等の取引に係る収入と支出の差額 施設費収入、建物・設備の取得、投資資産の取得及び売却の取引 など	△ 8,256	△ 3,101	5,155
III 財務活動による キャッシュ・フロー	資金の調達及び返済の取引に係る収入と支出の差額	△ 3,975	△ 3,915	59
IV 資金増加額 (I + II + III)	当期中の現預金（拘束性のない手元現金・当座預金・普通預金）増減額	1,795	595	△ 1,199
V 資金期首残高	前期末現預金残高	6,223	8,019	1,795
VI 資金期末残高 (IV + V)	当期末現預金残高	8,019	8,614	595

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

主な増減内容

業務活動	投資活動	財務活動
7,612百万円（△6,414百万円） ●原材料・商品又はサービスの購入による支出 △31,592百万円（△2,721百万円） ●人件費支出 △48,651百万円（△2,162百万円） ●補助金等収入 6,935百万円（△1,799百万円）	△3,101百万円（+5,155百万円） ●有価証券の償還による収入 153,480百万円（+8,520百万円） ●有価証券の取得による支出 △149,002百万円（△4,541百万円） ●有形固定資産の取得による支出 △ 18,748百万円（+2,110百万円）	△3,915百万円（+59百万円） ●国立大学財務・経営センター債務 負担金等の返済による支出 △1,962百万円（+102百万円） ●ファイナンスリース債務の返済による支出 △1,475百万円（△136百万円）

平成26年度のキャッシュ・フロー計算書からは、本学が業務活動で得たキャッシュで設備投資（資産の取得等）を行い、借入金の返済等を行っていることが読み取れ、健全な資金の収支状況であったことを示しています。

会計メモ⑥ 『国立大学法人のキャッシュ・フロー計算書』

国立大学法人は民間企業と異なり、運営費交付金など、業務運営に必要な経費について国から交付を受けており、附属病院の経営収支が大幅にマイナスであった場合を除き、資金不足（業務活動によるキャッシュ・フローがマイナス）になることは通常ありません。その他については民間企業と同様、設備等への投資が積極的に行われたか（投資活動によるキャッシュ・フローがマイナス）、または抑制傾向にあるか（投資活動によるキャッシュ・フローがプラス）、借入金等により資金を確保したか（財務活動によるキャッシュ・フローがプラス）、借入金等の返済により財務改善を進めたか（財務活動によるキャッシュ・フローがマイナス）等を判断することができます。